※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

**事業番号** 新32 － 0026

# 平成３１年度行政事業レビューシート（ 総務省 ）

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業名 | 電波の利用状況調査・公表 | | | 担当部局庁 | 総合通信基盤局 | 作成責任者 |
| 事業開始年度 | 平成３２年度 | 事業終了（予定）年度 | 終了予定なし | 担当課室 | 電波政策課 | 課長　布施田　英生 |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | |
| 根拠法令（具体的な条項も記載） | 電波法第26条の2<br>電波法第103条の2第4項第13号 | | | 関係する計画、通知等 | 規制改革推進に関する第2次答申（平成29年11月29日答申）<br>電波有効利用成長戦略懇談会　報告書（平成30年8月公表） | |
| 主要政策・施策 | IT戦略 | | | 主要経費 | その他の事項経費 | |
| 事業の目的（目指す姿を簡潔に。3行程度以内） | 近年の携帯電話の普及や無線アクセスシステムなどの電波ニーズの増大により電波の逼迫状況が深刻化しているところ、新たな電波利用ニーズへの対応や技術の進歩に応じた電波の最適な利用の実現に当たり必要な周波数の移行や共用などの電波の再配分に資するため、既存電波利用システムに係る電波の利用状況を調査し、電波の有効利用の程度を評価する。 | | | | | |
| 事業概要（5行程度以内。別添可） | 電波の利用状況調査について、令和2年度より、更なる電波の有効利用に結びつけるため、調査及び評価に必要な支援作業や既存電波利用システムの電波の利用状況を客観的に把握するための発射状況調査を外部に請け負わせるとともに、第5世代移動通信システム（5G）等の電波利用システムや重点調査システム等に係る調査事項及び発射状況調査を実施するシステムの測定方法等の調査方法、調査を踏まえた評価方法等に係る調査検討の支援を外部に請け負わせる。 | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負 | | | | | |

**予算額・執行額**（単位：百万円）

| | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 予算の状況 | 当初予算 | | | | | 660 |
| | 補正予算 | | | | | |
| | 前年度から繰越し | | | | | － |
| | 翌年度へ繰越し | | | | | |
| | 予備費等 | | | | | |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 660 |
| 執行額 | | | | | | |
| 執行率（%） | | － | － | － | | |
| 当初予算＋補正予算に対する執行額の割合（%） | | － | － | － | | |

**平成31・32年度予算内訳**（単位：百万円）

| 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 |
|---|---|---|---|
| 電波監視等業務庁費 | | 659 | |
| 電波監視等業務旅費 | | 1 | |
| 計 | 0 | 660 | |

**成果目標及び成果実績（アウトカム）**

| 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 － 年度 | 目標最終年度 － 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ― | ― | 成果実績 | ― | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 目標値 | ― | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 達成度 | % | ― | ― | ― | ― | ― |

**根拠として用いた統計・データ名（出典）**：―

**成果目標及び成果実績（アウトカム）欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載**　チェック

**定量的な成果目標の設定が困難な場合**

| 定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標 | 定量的な目標が設定できない理由 | 定性的な成果目標と28～30年度の達成状況・実績 |
|---|---|---|
| | 本事業は、既存電波利用システムに係る電波の利用状況を調査し、電波の有効利用の程度を評価するものであるため、定量的な成果目標を示すことは困難。 | 既存電波利用システムに係る電波の利用状況を調査し、電波の有効利用の程度を評価する。 |

**事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績**

| 代替目標 | 代替指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 － 年度 | 目標最終年度 － 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 対象年度の周波数帯を利用する全システムを調査 | 調査実施電波利用システム数 | 実績 | システム | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 目標値 | システム | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 達成度 | % | ― | ― | ― | ― | ― |

| 活動指標及び活動実績（アウトプット） | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | 32年度活動見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 調査実施電波利用システム数 | 活動実績 | システム | ― | ― | ― | ― | ― |
| | | 当初見込み | システム | ― | ― | ― | ― | 300 |

| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 執行額／調査実施電波利用システム数 | 単位当たりコスト | 百万円 | ― | ― | ― | ― |
| | | 計算式 | / | ― | ― | ― | ― |

| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | | |
|---|---|---|
| 政策評価 | 政策 | V.情報通信(ICT政策) |
| | 施策 | 5. 電波利用料財源による電波監視等の実施 |

| 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 － 年度 | 目標年度 － 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | － | 実績値 | － | － | － | － | － | － |
| | | 目標値 | － | － | － | － | － | － |

| 定性的指標 | 目標 | 目標年度 | 施策の進捗状況（目標） |
|---|---|---|---|
| － | － | － | － |
| | | | 施策の進捗状況（実績） |
| | | | － |

| 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 |
|---|
| |

## 事業所管部局による点検・改善

| | 項　目 | 評　価 | 評価に関する説明 |
|---|---|---|---|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 新たな電波利用ニーズへの対応や技術の進歩に応じた電波の最適な利用の実現に当たり必要な周波数の移行や共用等の電波の再配分に資することを目的としており、国民や社会のニーズを反映しているものといえる。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 電波法第26条の2の規定に基づき総務大臣が実施する調査及び評価であり、国が実施する必要がある。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 電波法の目的である「電波の公平かつ能率的な利用を確保することによって公共の福祉を増進すること」の達成のために重要な事業の一つである。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | - | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約（企画競争）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | - | |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | - | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | - | |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載） | - | |
| | 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載） | - | |
| | その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | - | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | - | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | - | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | - | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | - | |

| 関連事業 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載） | | | - |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 点検・改善結果 | | |
|---|---|---|
| | 点検結果 | |
| | 改善の方向性 | |

| 外部有識者の所見 |
|---|
| |

| 行政事業レビュー推進チームの所見 | |
|---|---|
| | 事業の目的の達成に向け、適切な目標を設定し、適正な予算執行となるよう努めること。 |

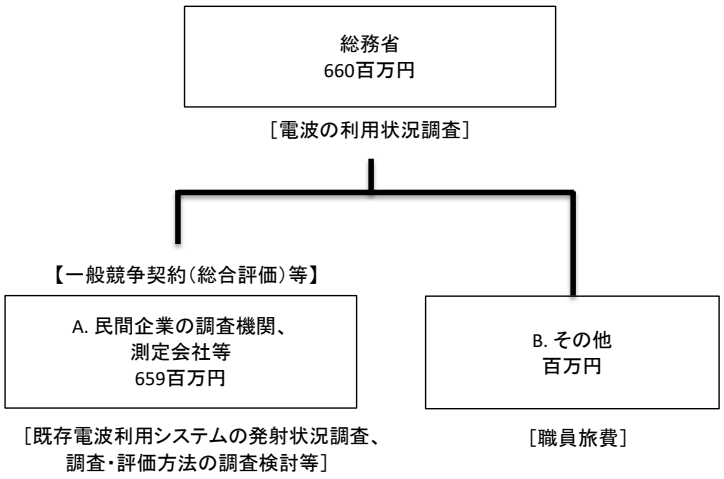
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | |
|---|---|
| | |

| 備考 |
|---|
| |

| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成22年度 | | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | |
| 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | |
| 平成30年度 | | | | | | | |

**資金の流れ**
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



| 費目・使途<br>（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載） | A. | | | B. | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 費 目 | 使 途 | 金 額<br>（百万円） | 費 目 | 使 途 | 金 額<br>（百万円） |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| 費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 | | | | | チェック | |

**支出先上位10者リスト**

A.

| | 支 出 先 | 法 人 番 号 | 業 務 概 要 | 支 出 額<br>（百万円） | 契約方式等 | 入札者数<br>（応募者数） | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策<br>（支出額10億円以上） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | | | | |

**国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト**

| | ﾌﾞﾛｯｸ名 | 契 約 先 | 法 人 番 号 | 業 務 概 要 | 契約額<br>（百万円） | 契約方式 | 入札者数<br>（応募者数） | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策<br>（契約額10億円以上） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | | | | | |